

8020

今週の6月4日から10日は、「歯の衛生週間」です。

ところで、皆さんは「8020」運動というのをご存じですか。この運動は、80歳になっても自分の歯を20本は残そうというものです。

私は歯（歯だけではありませんが）は残念ながら弱い方で、部分入れ歯のお世話になっていますが、何とか自分の歯を20本というのはクリアしています。

若い頃は、いよいよどうしようもなくなってから歯医者さんのところに行って、結局歯を抜かれてしまうことが一度ならずありました。痛い思いを何度もしているはずなのに、どういう訳か歯医者さんにはなかなか足が向きません。それでも最近では、若い頃の姿勢を反省して、定期的に歯医者に出かけ（歯医者から催促の葉書が来るからですが）チェックしてもらっています。

年齢の「齢」という字には、「歯」という字が使われていることでも分かるように、昔の人は、人間はじめ動物の寿命に「歯」が深く関わっているということを知っていたんですね。

野生の動物は、歯がなくなれば死ぬしかありません。それは人間だって同じで、歯がなくなれば健康に生活することは難しくなります。年をとったら食べることだけが楽しみなんていう人がいますが、それが出来るのも「歯があればこそ」でしょう。

さて、これからが本題ですが、文部科学省の調査によると、12歳の永久歯の1人当たり虫歯の本数を調査したところ、平成23年度は全国平均1.2本に対して北海道は2.3本と沖縄県の2.6本に次いでワースト2という状況になっています。全国的には、虫歯の本数は減る傾向にありますが、北海道の場合は横ばいという状況で推移しています。北海道と沖縄県がワースト1位、2位を争うというのは、学力調査と似ていますね。余り感心しませんが。

他都府県と比較して北海道の子どもに虫歯が多いのは、生活習慣や食生活等の影響が大きいと思われるのですが、それだけでなく、各県との虫歯予防の取組の違いが大きいと思われる。

現在、虫歯予防には「フッ化物洗口」という方法が非常に効果があるといわれています。この「フッ化物洗口」というのは、低濃度のフッ化物水溶液で口

をすすぐと、歯を構成するミネラルが歯に戻る「再石灰化」を促す効果があるといわれており、学校内で定期的に行うことにより、各家庭での食習慣や歯磨きの習慣にかかわらず虫歯予防の効果があるとされています。事実、全国トップとなった新潟県はじめ上位県では、いずれも学校単位で「フッ化物洗口」を行って効果を上げています。これに対して、北海道では、各学校における取組は必ずしも進んでいるとはいえません。それは、各学校における「フッ化物洗口」に対する理解の不足ということ以上に、中毒等のリスクや教師の負担に対する抵抗感が依然としてあるということではないかと思えます。

確かに、濃度が高い溶液だと中毒を起こす恐れがありますが、管理を適切に行えばそうしたリスクは避けられますし、実際「フッ化物洗口」で事故が起こったという話は聞きません。

また、「フッ化物洗口」を学校ぐるみで実施するという事になれば、教師の皆さんに新たな負担がかかると思いますが、それは工夫次第で解決できるはずです。

北海道教育委員会では、「フッ化物洗口」を普及促進するとしていますが、市町村教育委員会や学校現場の理解と協力がなければ実効性は上がりません。

人が生涯にわたって健康に生活するためにも、国民病ともいわれる虫歯を子どもの段階で予防することは非常に重要です。この事を分かっているながら、教師の負担やリスクを理由にして、学校としてなし得る努力をしないというのは、怠慢といわざるを得ません。（塾頭 吉田 洋一）